

看護師

教育のさらなる充実めざす

保健師

保健師養成を学部課程から分離へ

本学看護学科では、令和4年度入学生から看護師・保健師統合カリキュラムを廃止し、令和7年度に新たに1年間の保健師養成課程（別科あるいは専攻科を検討中）を開設することになりました。

▼これまでの統合プログラム



▲令和4年度入学生からの養成プログラム



熊本市北区で公衆衛生看護実習中の学生たち（2021年10月）

これまで保健師コースの20名については、4年間の学部課程のみで看護師に加えて保健師の受験資格を得ることができ、これは本学看護学科の魅力の一つでした。しかし、令和4年4月入学生からは、国家試験受験資格要件が、保健師・助産師で各3単位、看護師で5単位増えることが決まっています。この背景には、少子高齢化が進み、地域包括ケアシステム構築が推進されるといった社会情勢の変化に伴い、保健師・助産師・看護師という看護職各々の資質向上が求められていることがあります。今回の保健師養成課程の分離は、この時代の要請にこたえるべく、より充実した看護師・保健師養成課程構築のための決断です。

加えて、これまでの看護師・保健師統合カリキュラムには定員20名の保健師コースのためにかなり無理をした編成となっていました。特に4年次には、保健師コースの学生には密なスケジュールとなり、それ以外の看護学科生にとっては逆に空きが多いスケジュールとなっていました。また、他年次における科目編成にも影響を及ぼしていました。保健師課程分離により、これらのひずみを解消できることも大きなメリットです。逆に、分離せずに単位増となれば、看護師養成課程、保健師養成課程の双方において一層大きなひずみを抱えたカリキュラムにならざるを得ません。

これからの看護師、保健師に求められるより高度な能力を養成するためには、二つの課程を分離することが必要です。今後、看護学科の新カリキュラムおよび、保健師教育課程については、随時情報発信してまいります。熊保大の新たな看護教育にご期待下さい。（学部長・保健師課程設置検討ワーキンググループ長 渡辺雄一）

OT/STムービー グッドデザイン賞を受賞！！

本学ホームページで公開しているリハビリテーション学科 生活機能療法学専攻（OT）と言語聴覚学専攻（ST）のPR動画2本が、本年度のグッドデザイン賞に選ばれました。自分たちの職種に興味を持ってもらおうと、熊本市の広告代理店に制作を依頼し、「スペシャルムービー」として令和2年7月から公開しています。高校の進路指導教員や一般の方からは素晴らしい内容とのご意見メールを頂戴しています。また、OTのある授業内でのアンケートでは「あのムービーを見て熊保大進学を決めました」という意見が少なからずあったということです。



【撮影秘話 その1】OT「夢を支援する〜イルカと泳いだ女の子」(5分47秒)

イルカを使っての撮影のため、施設からはイルカが驚きストレスがかからないように大きな声、拍手を禁止されていました。クライマックスで女の子が泳ぎに成功したときは現場のボルテージは最高潮に達しましたが、歓声を上げることができず、ということがありました。



【撮影秘話 その2】ST「カセットテープに残された最後の声」(8分1秒)

動画に登場する喉の手術で声を無くした男性は、制作会社の担当者のお父様でした。家族内の思い出を本学のために有効活用できるのならと題材にし、動画制作に踏み切ってくれました。

(経営企画室)

続報

OTによるスポーツヘルスサイエンス事業

新たなフィールド開拓への挑戦

スポーツヘルスサイエンス事業は、本学の保健科学に関する専門的な知識と技術を「スポーツアスリート支援」に活かす活動で、将来的にはジュニア世代やシニア世代への支援も視野に入れています。

「スポーツアスリート支援」というと通常「理学療法士」のフィールドだとお考えの方が多いと思います。実際にPTの松原准教授と鍼木講師が運動・動作解析や体力分析を担っています。一方で心理分析や疲労チェックといった

スポーツメンタルの領域はOTの益満准教授が担当しています。この「作業療法（OT）×スポーツメンタル」は、OTの新たなフィールドを開拓するチャレンジでもあります。今後、高校生や社会に向けてしっかりと発信し、新しい魅力を提供できればと思っています。このような新たな活躍の場を開拓する職域拡大の取り組みは、今後も本学において重要な課題の1つであると考えています。OTでスポーツメンタルを担当している益満准教授は「アスリートはハードなトレーニングにより抑うつ状態やストレスフルな状態になり、精神的な不調を訴えることがある。そういうメンタルヘルス的な部分に関わることができるのではないかと話しています。（法人事務局／経営企画室）」

= 写真は、TKUのホームページに掲載されているYouTube動画より



◆**令和4年度学校推薦型選抜を実施!** 20日(土)、令和4年度入試前半戦の山場である学校推薦型選抜が実施され、指定校枠で44人、公募枠で155人が筆記試験や面接に挑みました。同日は、周辺道路で発生した交通トラブルのため、一部受験生の試験時間を繰り下げるなどの措置が取られましたが、大きな影響はなく、全員が無事受験することができました。試験を終えた受験生は「緊張はしたが、面接官が優しく、和やかな雰囲気を受験できた」「大学に入ってから専門を学びながら、大学生活を楽しみたい」と話していました。学校推薦型選抜の合格者は、12月1日(水)に発表されます。(入試・広報課)



試験会場入り口で検温を行う受験生

◆**新型コロナ抗体価を測定** 本学の新型コロナワクチン接種者を対象とした抗体価測定のための採血が18日(木)と19日(金)、1203実習室で行われ、111人が協力しました。これは、ワクチン効果(免疫獲得と発症予防)を検証するために「ワクチン接種プロジェクト検証チーム」が取り組んでいる全学的事業の一環で、今回は7月、8月に続き3回目の実施となりました。自分の抗体価を知ることによって、自らの行動制限や3回目のブースターワクチン接種などの必要性を判断するための助けになることが期待されています。

◆**インフルエンザワクチン接種** インフルエンザの流行が懸念される中、今年も本学教職員と学生を対象にしたワクチン接種が学内で行われました。熊本医師会ヘルスケアセンターが協力。10月25日(月)から11月19日(金)までに計4日行われ、教職員及び関係者計176人、学生計1404人が受けました。日本感染症学会によると、冬季に新型コロナウイルスの大きな流行が起こることが予測され、特にインフルエンザの流行期と重なることにより、重大な事態になることが危惧されるということです。学医の山田和慶教授は「ワクチン接種は感染を完全に防止するものではありません。冬季に向けて気を緩めることなく、これまで通りの感染予防対策を徹底していきましょう」と呼び掛けています。

ほぼ皆既月食

19日(金)、夕方から宵にかけての時間帯、医学検査学科の**田邊香野講師**がとらえた1枚です。最大で月のおよそ98%が欠ける部分月食が起こりました。次に起こるのは2086年だそうです。

今週の1枚



インフォメーション

■**テレビ放映** 本学が取り組むスポーツヘルスサイエンス事業が、12月2日(木)にテレビ熊本のTKUライブニュース(18:09~19:00)内の特集コーナーで、4日(土)にはテレビ熊本の特別番組(10:35~11:30)で紹介されます。皆さんぜひご覧ください。

■**サイエンスカフェ** 11月30日(火)18:00~、1300L講義室でサイエンスカフェが開催されます。今回の演者は生物毒素・抗毒素共同研究講座 大学院2年の志多田千恵さんで「忘れられている破傷風」と題して講演します。皆さんご参加ください。(※学内者のみの参加となります。)

週間行事予定(11月27日~12月3日)

11 / 29 (月)

心と体の健康づくり研修会